実施要領　様式５（第７条第２号関係）

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を職員全員で作成している。しかし、職員の入れ替えが一部あるものの理念は伝えているものの経緯を知らせていない。	○	皆で再考する機会を設け理念の共有に努めたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員皆で実践に向け取り組んでいると共に目に付きやすい場所に理念を掲示している。地域との関わりは今一つのの状況である。	○	ミーティング等の場を通じて呂ねんに触れ、さらに意識を高めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者・家族はもとより、来訪者にも見やすい所に理念を掲示している。また、H19/7　えにしたより発行の際、回覧板にて理念を町内会へも知らせている。	○	便りを継続して発行し、地域へも知らせていきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会の催し物や桜祭りに参加をし交流を図る努力をしている。また、地域から回覧板も届くようになり、そこからも情報を得るようにしている。地域の方に気軽に立ち寄っていただくことは、立地上難しい部分がある。	○	地域行事への積極的な参加ともに行事への手伝いの参加・協力により深い交流が生まれ、近隣の方が気軽に立ち寄ってもらえるよう努めていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果を踏まえ、改善に努めている。	○	理解できない部分や、改善項目を皆で考える場を設け、質の向上を図れるようにしていきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録はいつでも見ることは出来るが、会議内容について詳しく職員への周知が図られていない。また、会議録に目を通さない職員もいる。	○	会議内容を書面のみではなく、具体的に説明する機会を設け、もっと主体的に捉えら。れるようにしたい
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加が得られるようになった。また、会議録提出時等に話をする機会が増え、市町村職員に気軽に何でも聞きやすくなった。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学習会を開催し必要性を学んだ。しかし、全職員が十分に知ることが出来たかは疑問である。現在、活用されている利用者が１名いる。	○	継続した学習会の開催
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	学習会は予定されていたが、未実施の状況。しかし、会議の場等で話し合い、考える機会はある。	○	言葉での誤解を招かないよう十分な注意をし、身体拘束のみに目を捉えられないよう気をるけていきたい。また、学習会を今年こそは開き、皆で学びたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には見学や理念等をゆっくりと説明をしているが、十分に理解しているか疑問である。折りに触れ、手紙や面会の時に再度説明をすることがある。	○	理解できない場合は、家族、利用者、管理者またはスタッフを交え、納得・理解が得られるように話し合って行く。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置する。また。入居者の訴え、要望などに関しては、毎日の申し送りやユニット会議で話し合い解決している。また、職員への周知も図っている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月初めに手紙で状況報告をすると共に、面会時には近況報告や入居者の日頃の要望等を報告している。発熱等、突発的なものについては、電話にて連絡をし、場合によっては受診への同行を呼びかけている。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に必ず声を掛け挨拶をし、会話をしやすいよう雰囲気作りに心掛けている。	○	運営推進会議への積極的な参加を今後も呼びかけ、活発な意見交換の場を作っていきたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送りで、スタッフは意見を出す機会がある。しかし、不満や苦情は、言い難い部分もあるので把握しきれていない。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院、御璽等に合せ、対応がなされている。また、急な外出等に対してもスタッフ同志声を掛け合い対応をしている。しかし、反面、スタッフの流れに入居者が合せて、いる感はぬぐいきれない。	○	利用者の視点に立ち、スタッフ皆が、柔軟な対応が出来るようにしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職等により異動があり、引継ぎをし、不安混乱を最小限にするよう努力をしているが上手くいかないことがある。しかし、ユニット間を入居者・スタッフともに行き来が可能なため、馴染みの関係を築きやすい面はある。	○	職員の異動はは最小限に抑えるようにし、やむを得ない場合は十分な引継ぎを行い、不安や混乱を最小限にするようにしたい。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加を呼びかけている。研修受講後は報告書を作成しているが、報告会は今一歩の状況である。	○	研修報告会の慣例化をする。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	青森市内のグループホームとの職員交換実習を行っている。	○	ネットワークの幅をもっと拡げていきたい。また、毎年他のグループホームとの交流を行っていきたいと思う。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室があり、利用者と違う空間が設けられている。スタッフ同志の親睦の機会は少ない。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得希望者へは要望を受け、試験日等は勤務除外の配慮を行っている。また、運営者はできるだけ施設に顔を出し、状況の把握に努めている。	○	人事考課制度を取り入れ、各人がもっと向上心を持てる取り組みを行ってみたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用前に管理者及び計画作成担当者が訪問調査を行い、本人の希望等を確認し、家族からも要望等を聞いている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談来所持には、入居申し入れの併願（急ぐ場合）やショートステイの利用、在宅サービスの紹介・居宅介護支援について話をすることがある。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族は勿論にこと入居前には、本人にも見学をして頂くように勧めている。また、事前に十分な話し合いを行う努力をしている。	○	入居することを理解していても、なかなか納得がいかない方へは通初夏以後を通じて、馴染みの関係を築いていきたい。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	和やかに個人にあった支援に心掛け、喜怒哀楽を共感し、理解するように努めている。また、今までの人生の経験の中から教えを請う様にしている。しかし、反面一方的にケアの押し付けを行っている感は拭いきれない。	○	家庭的な中で、個人を尊重しながら助け合い生活をしていけるよう、心掛けていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況や日頃の要望等を報告し、それに対しての家族の意見や要望を聞けるよう、引き出せるよう努めている。しかし、上手く向き合えずに居る場面は往々にしてある。	○	馴れ合いになりすぎず、ある程度の距離をとりながら、楽しいことや悲しいこと等を一緒に語り合えるようになりたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠にならないよう、面会への働きかけや面会時の状況報告に努めている。家族との外出や外泊も奨励をしている。また、行事への参加を呼びかけ、その際には共に食事をする機会を設けている。	○	お盆・正月の外出や外泊を継続して案内をし、行事への参加も呼びかけていく。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が電話をしたり、住み慣れた場所へのドライブを行っている。また、親しい方々の面会は得られている。	○	家族と共に馴染みの人や場所に行けるよう働きかけていきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良し悪し等、入居者の人間関係を把握し、良い関係作りができるよう心掛けている。	○	利用者の勢いに押されず、しっかりと向き合うようにする。また、職員は常に気配りをした対応に努めていきたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も入院の面会や年賀状を送り、家族からは近況の知らせが届いている。入院をしてそのまま亡くなられた方へはお通夜へ参加をさせてもらっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から聞き出すよう努めているが、遠慮などでいえない部分はあると思う。本人の意向を聞き、家族と話し合う場を設けても、家族の意向を本人がしびしぶ受け入れてしまう状況が多い。	○	入居者の立場になり、家族・関係者から情報収集をしつつ架け橋になれるよう、入居者及び職員・家族に関係が更に近づけるようにしたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の訪問時のアセスメントや一人一人の記録や会話の中から汲み取るようにしている。	○	日頃の会話の中で聞き取った情報をすぐにアセスメントシートに記入をする習慣を身につけたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活リズムを把握し、生活を継続できるようにしている。また、できること・できないことへの把握も行っているが、生活へ上手く活かしきれていない。	○	出来ることを生活のなかへつなげ、一緒に行い出来るように支援していきたい。また、心身の状態の変化を見落とさないよう、日々違う訴えを十分に聴き対応し、穏やかな暮らしができるよう支えていきたい。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	定期的なユニット会議やモニタリングを行い、皆で話し合っている。家族へも意見。要望がないか呼びかけている。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に応じた対応がその都度、申し送りで話し合われ実践をしている。状態変更時には、計画の変更をするようにしているが、計画を変更しないまま実践をしている時もある。	○	計画の変更が後回しにならないよう十分に気をつけていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分量・排泄・睡眠等の状況を日々の暮らしの様子を毎日記録し、職員はいつでも確認を出来るようにしている。	○	気づきの記入の充実化を更に図っていきたい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診援助での医師への報告や買い物・温泉・散歩・地域行事への参加を柔軟に対応できるよう心掛けている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	歌や踊り、尿良妻には食事準備のためのボランティアの協力を得ている。また、消防署では救急法の指導をしてくれている。	○	広報の発行を継続し、必要な社会資源に結び付れるよう、ホームを知ってもらう機会を作っていく。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容があり、利用者の要望を受け依頼をしている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への参加により関係が強化されたように思う。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はもとより、入居者の希望する医療機関への受診や通院に努めている。体調変化がある時は随時受診をし、家族へは電話で連絡を行っている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に精神科医師がおり、指示や助言・相談に応じてくれる。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援をしている。	○	健康状態を一目でわかるような記録方法を今後は考えていきたい。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	見舞いを行い、その中で情報を収集する様にしている。また、家族への病院からの説明の際は同席をさせていただき、注意事項等を確認している。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における同意書を作成しているがまだ、それおを活用したことはない。しかし、状態変化の際には家族の意向を聞き、医師を交えた話し合いの場を持つようにしている。	○	在宅での看取りについて医師の理解が難しい状況にある。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアをまだ行ったことがない。しかし「できること・できないこと」を家族・医師にその都度伝え、話し合い、今できることを現在行っている状況である。	○	職員の気づきの強化、医師の協力について現在整備中である。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	し瀬tるを移る際には管理者が情報提供書を作成し、手渡している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライドやプライバシー、個人情報保護を傷つけないよう心がけ対応をしているが、言動を否定したり拒否していしまうことがある。	○	ケアについて職員同士互いに検証をし、振り返りながら行っていきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を促すような声がけに努めている。自分では決められない方へは、質問の仕方を工夫したり、返事で返せるよう留意した対応をしている。	○	時間を掛けても良いので、その人の希望に添えるよう接していきたい。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩・買い物等一人一人の思いに配慮しながら柔軟な対応に心掛けているが、業務を優先してしまうときがある。	○	業務を生活として捉えることができれば意識が変わり、関わり方も変わると思う。考え方の転換をしていみたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に理容院が訪問したり、個別に美容室へスタッフや家族と一緒に出掛けている。衣類や整容の乱れは、さりげなくサポートするようにしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や体調に応じて献立を一部変更することがある。入居者は理由付けをし調理等を一緒にやらないが、お盆拭きは手伝ってくれるようになってきた。食事中は静かで楽しそうな雰囲気はない。	○	継続して参加していただくよう働きかけていく。いきなりではなく、小さな事から一つずつ積み重ねていきたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒・タバコの依頼はないが、おやつ・飲み物・消耗品などの買い物の依頼がある。希望により一緒に出掛けることもある。しかし、買い物への同行の頻度は減ってきている。	○	いつでも一緒に出掛けられることを入居者、職員への浸透を再度図っていく。
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	配せいつの状況を記録し、そのパターンに合うようスタッフ同志声掛けしながら対応をしている。	○	必要以上の介護用品の使用を避け、スタッフ及び入居者の介護用品への依存を少なくし、トイレ排泄の意識を高めていきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決めておらず、毎日その人の希望に合せた入浴ができるようにしている。但し、時間帯には制限がある。入浴を拒否した方へも対応を工夫しているが、なかなか受け入れてもらえず、家族にも協力してもらっている。	○	拒否をし間隔があき、上手く入浴していただくまでのタイミングの難しさを感じ、現在模索中である。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。一人一人の体調や表情等を考慮し休息がいつでも取れるよう支援している。また、寝付けない方に対しては、付き添ったり会話をし見守っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブに誘い気分転換を働きかけたり、手芸の好きな方には教えたり、教えてもらったり知識を交換している。なた、唄を歌ったり、トランプ等のゲーム、散歩の付き添いの楽しみごとを引き出す努力をしている。	○	やらされ感のないよう働きかけ、一緒に楽しみながら継続していけるよう支援していきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望や力量に応じ、小遣い銭を自己管理していただいている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望を聞き、少人数または一対一での買物やドライブ等に出掛ける援助を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉にｽﾀｯﾌが一緒に行ったり、家族の協力を得て墓参りや帰省を行っている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置している方が一人居る。電話は自由に使用し、連絡を取り合っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に声を掛け、居心地の良い雰囲気になるよう心掛けている。	○	家族が外泊を希望した際には、対応できるようにしたい。
（4）安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないようスタッフが意識をし取り組んでいるが、気づかすに安易に小さな拘束を行っている時がある。（ベット柵の使用、待っててね、車椅子や椅子へのすわらっせぱなし等）	○	日々の中でお互いの点検と学習会の開催。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけず、日中の外出は自由にできるようにし、散歩に出る方にはｽﾀｯﾌが付き添うよう対応をしている。トイレ等で自室に施錠をする方はいるが、ノックにより開放をしてくれる。	○	自室への施錠をする方へは、その都度理解を図っていく。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ｽﾀｯﾌは同じ空間で記録等の事務作業を行い、さりげなく全員の状況把握に努めている。散歩へ出掛ける方へも同行をしたり、頻回に様子を確認している。夜間は2時間ごとに様子を確認するとともに、すぐに対応できる体制をとっている。	○	フラツキながら散歩に出掛けられる方がいるが、同行を怒る。プライバシーには十分に配慮をした対応を心がけ、場を離れる時のｽﾀｯﾌ間の声掛けを徹底し、安全に十分留意をする。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態に応じ、本人・家族と話し合い危険物（ナイフ、はさみ等）を預かりしている。薬品や洗剤類は鍵付のロッカーで保管をしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状況に応じ注意事項が申し送られ、緊急時の対応はマニュアルがいつでも見れるようになっている。ﾋﾔﾘﾊｯﾄを記録しているが、気づきが少なく、また記録後の防止策が検討されていない。事故が発生した場合には速やかに報告書を作成し、原因等を家族へ説明と報告を行っている。	○	定期的なマニュアルの再確認。事故防止対策委員会の設置をしﾋﾔﾘﾊｯﾄの事例を検証し、事故防止に取り組んでいきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時、緊急時マニュアルが目に付くところに掲示されている。また、消防署にて救命救急の講習を受けたり、看護師による研修会を行っている。	○	定期的に学習会を開き、周知徹底を図りたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者とともに避難訓練を行っている。	○	地域への協力を働きかけて行きたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こる得ることについて、家族に面会時話をしている。家族からの承諾は得ているが、抑圧感のない暮らしをしていただくことの難しさを感じている。	○	拘束と安全で悩みながら、事故防止に努めているのが現状です。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日ﾊﾞｲﾀﾙチェック、食事量、排泄、睡眠状態を観察・記録し、体調変化の早期発見に努め看護師に相談、報告し必要に応じ受診をしている。	○	歳だからと我慢させることのないよう、早期異変発見に努める。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の文献はケース記録に綴り確認できるようにしている。また、薬の変更、追加処方時は看護師より観察事項、副作用等の話がある。薬は2人で事前に確認をし、服薬時に名前・時間等を再確認している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	起床時の冷水の提供や水分を多めに摂ってもらったり、運動を勧めている。下剤服用者は葉説確認を行い、必要に応じて適宜、使用量を確認している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助を要する方は毎食後の口腔ケアを実施しているが、一人でできる方は応じられる方が殆どなく、主に夕食後の洗浄になっている。その中で不十分な方は義歯洗浄剤を使用し、スタッフが確認をしている。	○	毎食後のうがいの促しだけでも働きかけたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分接収状況を毎日チェック表に記録し、ｽﾀｯﾌは情報を共有している。また、本人の嗜好や状態に合わせ調理形態の工夫や代替を提供している。	○	おやつを自己管理されている方の摂取の仕方や運動の働き掛けに努めたい。また、年に1～2回栄養士より献立に対するアドバイスをもらいたいと思っている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	ｽﾀｯﾌ、利用者ともにｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ予防接種をしている。感染予防のためハイターを使用した掃除や本人使用の手拭やペーパータオルを使用している。しかし、手洗いになかなか応じてくれない入居者も居る。	○	感染予防の内容のポスター等の一部をｽﾀｯﾌの目のつく場所に掲示し、予防に取り組んでいる。継続した学習会を開きマニュアルの再確認をしていきたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、一部の調理器具は食洗器を使用しており、それ以外はハイター消毒している。食材は一つ一つに日付を記入し、確認をして使用している。また、調理はその都度行い作りおきをしていない。	○	冷蔵庫の点検を適宜行い、掃除をし衛生面にも留意をしていきたい。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇を作ったり、玄関にベンチを置き親しみやすい雰囲気つくりに努めている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にベンチを置き、いつでも外の空気に触れ休めるようにしている。廊下には利用者の作品、居間には季節の花等を飾っている。	○	素材により飾り物が幼稚になることがある。ｽﾀｯﾌが安易に選んで提供することのない様入居者と一緒に選び、飾り方も「自分の家」を意識していきたい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのｓファーや物干し場の椅子など自分の好みの場所で過ごされている。一人の時もあるし、入居者同士ゲームや談笑されるなど思い思いに過ごされている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物の規制はなく、家族と本人が相談をし好きな物を持ち込んでいる。家で使った家具や時計を持ち込んだり、位牌を持参してきている方もいる。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度・湿度計を設置し確認をしている。天気に良い日は窓を開けるようにし換気に努め、乾燥の時期には濡れタオルを下げたり、洗面ボールに水を張り湿度に気をつけている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく、トイレ・浴室・廊下に手すりを設置しているが、浴槽は少々大きい気がする。	○	浴室にもう少し手すりを設置したい。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前のネームプレートやのれんを見て確認をしている。混乱や失敗が生じた場合は、申し送りでｽﾀｯﾌが話し合い、本人の不安材料を取り除けるよう努力している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にベンチを置き、自由に日光浴を楽しめるよう又、1丁目、2丁目が自由に行き来でき、歩行運動に活用されている方もいる。		

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　　目		取　り　組　み　の　成　果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ○　③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ○　②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ○　②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ○　②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

入居者と正面から向き合い、一人で解決できない時はｽﾀｯﾌ同士声を掛け合い、問題を皆で解決していけるよう、またご家族にも状況を報告し、ｽﾀｯﾌ・家族が問題、情報を共有できるように心掛けています。健康面においては看護師を中心に、医療機関と連携を図り健康管理に努めていえます。